

GO! WEST!



案山子づくり

田んぼの提供者の新里さん(上平沢・牡丹野)から、佐藤中学校長に「8月初めの出穂するあたりの実の柔らかな時期に鳥たちがやってきて食べてしまう。」というお話を聞いて、それでは小中学生で、案山子(かかし)を作って立てようということになり実現しました。これで一安心、目に見える活動になりました。9月27日には小中ともに稲刈りを予定しています。豊作を期待しています。

あづまねカフェ

中学校で、6月10日(金)の午後、第1回の「あづまねカフェ」を開きました。地域で活躍している方20名を学校にお招きし、全校生徒98名とワールド・カフェを開きました。中学生約5人ずつのグループ(20組)がゲストを囲んで、お仕事や生き方について、車座になって対話をしました。お話を通じて共感し、ふるさとを実感し、自分らしい生き方について考えるいい機会となりました。

ゲストの職業 農家(畜産・米・野菜・キノコ・産直販売)

蔵元や杜氏、サイダリー、保育士、役場職員

地域おこし協力隊、獣医、葬祭業、JA、森林組合、図書館長

11月9日(水)には、このゲストの方々と保護者の方にも入っていただいて、第2回の「あづまねカフェ」を開催します。



放課後子供教室

水分・片寄の子供達はスクールバスでの登下校をしています。放課後の時間と場所が制約され、学校や家庭周辺での仲間と遊ぶ機会が少ないのではないかと、スマホやゲームなどの時間が増えているのではないかと、学校運営協議会で話題になりました。この話題を受けて、地域学校協働チームでは、全ての子どもを対象とした放課後の子供の居場所を設け、水分・志和公民館を中心とした地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などの取り組みを推進することとしました。その第1弾として、地区毎に「放課後子ども教室・面白工作教室」を始めました。

第2弾として、岩手県書写書道コンクールに向けた習字教室も行います。



ペットボール空気砲を作って遊ぶ子供達!

校報等の仕分けボランティア募集!

学校運営協議会では、地域の皆様に学校や児童・生徒、学校運営協議会の様子をご理解賜りたく、昨年2学期から月1回の区長発送と一緒に「小学校報・中学校報・CS通信」の一括班回覧を始めています。しかし、この仕分け作業(印刷、枚数数え、袋詰め等)に手間がかかり大変です。そこで、地域の皆様のお力をお借りしたいと思います。ボランティアとして協力いただけませんか。

日時: 毎月第3木曜日 14:00~15:00

会場: 西の杜小学校 CS ルーム

内容: 配布物の仕分け作業

申込: 西小に電話で(担当: 田中・松田)

行政区長・地区PTA委員の皆様

回覧のご手配ありがとうございます!

第2回 紫波西学園学校運営協議会 8月30日

8月30日（火）午後6時から、今年度2回目の学校運営協議会を開催しました。その主な内容をお知らせします。

【報告1 一学期の学校運営協議会の活動報告】

【報告2 学校運営協議会の成果と課題】

田中CSコーディネーターが1学期を振り返りながら、「紫波西学園の1年間の成果と課題」を説明しました。

【成果】スクールバス停留所付近の除雪、教職員の共同研究「探求のP4C」、9年間を繋ぐふるさと学習（米作り）、スクールガードボランティア、ゲストティーチャー、読み聞かせボランティア「杜のくまさん」、放課後子ども教室、校報等の定期班回覧、小中学生の地域活動

【課題】（コロナ禍のために未実施）紫あ波せトークキングの開催、幼保小中連携、学校支援ボランティアの拡大

【協議1 ワークショップ（熟議）】

今回は、全国的に話題となっている「学校の働き方改革」について、紫波西学園としても喫緊の課題として取り上げ意見交流（熟議）を行いました。

テーマ

先生方と子どもたちがゆとりをもって向き合うために
～学校の働き方改革を通じて～

- ・ 学校運営協議会委員と地域学校協働チーム（事務局）の15名が3つのグループに分かれてワークショップ（熟議）をしました。
- ・ 最初に、佐藤小学校長より、教職員の働き方改革について話題提供をしていただき、共通認識をした上で話し合いに入りました。

【話題提供 佐藤小学校長】

- ・ 働き方改革がうまくいくと、先生と子どもにゆとりができて、気持ちよく学校生活・授業ができる。
資料1 教員の勤務過酷さ浮き彫り（岩手日報8/18）
資料2 学校の働き方に理解と協力を（県教委R4.7）
資料3 教員働かせ放題（岩手日報8/18）
資料4 中学の部活動地域にお任せ（岩手日報7/12）
- ・ 紫波西学園の現状と課題を把握し、解決策を見出していきたい。

熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって②課題について学習・熟慮し、討議することにより③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに④解決策が洗練され⑤個人が納得して自分の役割を果たすようになるというプロセスのことを言う⑤（文科省資料）

【話し合い 3グループに分けてのグループ討議】



【Aグループのまとめの発表】

- ・ コロナ禍のために、満足に児童間・保護者間での交流が出来ていないこと。学校と地域で何かをやるのにも調整する時間が必要だができていない。
- ・ 学校にはマンパワーが不足している。コマ切れでもいいから地域からの支援・エネルギーを得ること。
（家庭科の時間や図工の時間、外部講師を依頼）
- ・ 小中ともに校地が広く、冬季間の除雪が大変（朝4時からの除雪）。ボランティアの協力がぜひ必要。

【Bグループのまとめの発表】

- ・ 部活動指導の負担が大きく、通常業務が部活動終了後に後回し（時間外）になっていることが課題。
- ・ 地域の方に指導者や支援者を頼めればいいのだが、実際は難しい。（勤務時間と重なる、保護者の理解と協力が得られにくい等）
- ・ 学校の枠を超えて、部活動を町内での一体的活動とすればできそう。

【Cグループのまとめの発表】

- ・ 部活動には構造的な問題がある。根本的解決策を！
マンパワーが必要、指導に労働的対価を支払う、教員の数を増やすなど抜本的改革が必要。
先生方のボランティア的活動に甘えてはいけない。
- ・ 部活の活動回数を減らして、土日は地域体験活動！
部活も大事だが、小中学生にとって重要なことは他にもたくさんある。地域が受け皿となり地域で学習。
- ・ 行事等の削減・精選で先生方に休憩時間をつくる。

次回(第3回)学校運営協議会のお知らせ

11月30日（水）午後6時～7時30分

- ・ 第2回ワークショップをさらに深める

【問合せ先】西の杜小学校 ☎ 673-7405

CSコーディネーター 田中